



## 申9号「ジェイアールバス関東の人材確保と育成、組合員・家族の生活維持向上を実現するための総合労働条件向上を求める申し入れ」

### 第1回団体交渉 趣旨説明おこなう ～その②～

【組合】扶養手当について、子供も1人育てるのに1963万円かかると厚生労働省から出されている。現行の扶養手当（配偶者16000円・子3500円）や30～50歳の新制度社員に500円の年齢加算をしたが当然それで賄えるものではない。時代にそぐわない部分は改善していかなくてはならない。会社として問題意識はどうか。

【会社】国や自治体・社会で支給されるものもあり、扶養手当は生活扶助という観点を踏まえている。何処を手厚くするのか、児童手当や高校の授業料など国や市町村の生活扶助の状況を総合して検討する問題であると考えている。

【組合】未来ビジョンをはっきり示してジェイアールバス関東会社で働いている人材を繋ぎ止め、新たな人材確保に向けた議論と会社回答を要請する。2年以上の苦しい期間を我慢してきた組合員と家族はこの交渉に注目している。今全項目を改善をとほならないだろうが、出来ない項目に対しても段階的に道筋を立てる検討してもらいたい。

【会社】コロナ禍以降新規採用を見合わせてきたが、今年度から状況を見ながら採用を始めることとした。まずはコロナ禍でも採用を待っていただいた方々に連絡をし、その後ホームページで近々にも募集をかけて採用を始める考えである。

【組合】春輸送においてもお客様が増加し、今後の高速バス利用者の需要はまだあると職場では実感している。航空会社や鉄道会社は具体的にコロナ前の何%まで戻ると試算しているが、今後のGW・夏季輸送を迎えるにあたりバス関東会社の目標とし、この交渉の議論も深めていきたい。

【会社】各職場においても現場長を通じてこれからの繁忙期に向けた現場での協力への雰囲気づくりを目指しており、改めてGW輸送にむけた協力をお願いしたい。GW輸送はコロナ前の75%、現在社員数はコロナ前の約85%であることからMAX出せても85%までと考える。免許取得者の減少等、バス業界全体で人材不足である傾向もあり、1年以内で社員数を100に返せるものでもないと認識している。昨年から今年にかけての年末年始輸送で単月黒字と考えていたが、年始はオミクロンで落ち、春輸送は蔓延防止期間の影響を受けた。このGW輸送が一つの資金石になる。

【組合】協力すべき所は協力するが、安全問題と改善基準や労働協約の範囲内でやっていく。段階を踏んででも諸手当改善をしていきたい。労働組合として会社の言う「生産性向上」は『施策努力分』と受け止め考える。次回以降将来に向かって回答を元に議論していきたい。



人材確保と育成・組合員と  
家族の生活維持向上を通じ  
ジェイアールバス関東会社  
の未来ビジョンを全組合員  
と家族で創り上げよう！！